

# 堂ノ尾山遺跡※

国分 直一・吉村 次郎・藤井 三男

Do-no-o-yama Site※

By

Naoichi KOKUBU, Jiro YOSHIMURA and Mitsuo FUJII

The Site of Do-no-o-yama as an archaeological site was first noted by M. FUJII and our archaeological investigation on the site was carried out from 26th February to 5th March, 1957.

Two disused storing pits were found on the slope near the graveyard of Do-no-o-yama. The upper part of these pits seems, however, to have been disturbed in the later days after these pits were abandoned by the Yayoi people. In the excavated pits, many kinds of seashell samples were collected. 274 pottery fragments were found from pit 1 and 362 pottery fragments were found from pit 2.

The pottery vessels from these pits are considered to be the vessels used in the years from the later stage of early Yayoi period to the earlier stage of middle Yayoi period.

Yayoi type vessels found from these pits seem to be worthy of paying attention, because we can imagine a Yayoi vessel group used as a set in the daily life of Yayoi people.

This report sums up the work accomplished in these pits area and describes the shells and pottery vessels collected.

堂ノ尾山遺跡は下関市吉田町吉田中学校の西方約500mに位置する標高31~35mの台地性丘地の傾斜地につけられた丘の頂辺に近い路上に貝の露層が見出されていたことから発見された。調査は1957年2月26日から3月5日にかけて行なわれた。調査の結果上述の貝の露層の見られた部分に1カ所と僅かに離れてやや上方に1カ所計2カ所ピットが発見された。上方のピットを第1ピット、下方のピットを第2ピットとよぶことにする。第1、第2各ピット共に、その形状はやや鼓胴状を示しているが、底面は第1ピットにおいて、底径1.6m×1.7m、第2ピットにおいて1.75m×1.33m、側壁の高さは最高部において、第1ピットにおいて1.15m、第2ピットにおいて0.92mを示していた。貯蔵用ピットの場合、一般的に見て、側壁の高さは底径と近似した数値を示す例の多いことからするなら、近世以降における墓地としての整地、道路の開設

※ 水産講習所研究業績 第358号, 1962年1月18日 受理。  
Contribution from the Shimonoseki College of Fisheries, No. 358.  
Received Jan. 18, 1962.

等のためにピットの上部が両ピット共にけずられていることは確かなことであろうと見られる。第1ピット南半には明らかに比較的近世における埋葬が発見されたし、第2ピットの南半は道路のために著しく切り下げられていた。

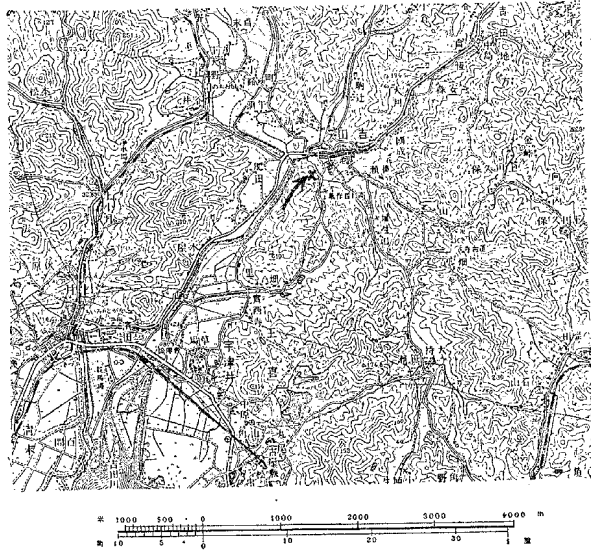


Fig. 1. Showing the location of Do-no-o-yama site.

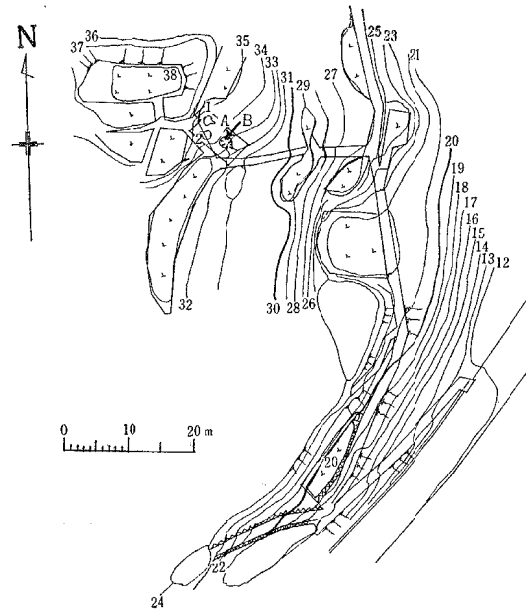


Fig. 2. A, Place where the trial excavation took place. B, Eroded place.  
1, Pit 1. 2, Pit 2.

ピット内における遺物の状況を見るに、弥生式土器破片と食用にしたあとのものと思われる貝殻の遺棄堆積は比較的下部と下底に及んで見出された。

貝の遺棄され方について見るに、第1ピットにおいては下底に棄てられた少量の貝が側壁の一部に傾斜して堆積しているのに対して、第2ピットにおいては遺棄された下底の土器片を覆うて見出された。

貝は内湾性のものを主体とするが、半鹹水性・淡水性のものもある。完形、或いは完形に近いものについて数量を調査したところ、第1ピットにおいて2,856個、第2ピットにおいて8,894個、破砕されたものを加えればその実数は更に増加するわけである。貝類の中マテガイは最も破砕し易く、破片となっているものが多かった。貝の種類、性質、数量についてピット別に掲示すると次の如くである。貝の同定は農林省水産講習所の網尾勝氏に依頼したものである。

次表によって明らかにしたが、多く採集されているものに内湾岩礁性のマガキ、内湾砂泥性のハイガイ、内湾砂性のハマグリ、マテガイ等があることを見ると、吉田川を下って瀬戸内の海辺に貝の採集に出かけていたことが考えられる。然し吉田川も少なくとも実西寺附近までは比較的近世に至るまで船が出入していたことから、半鹹水性の貝はその地域でも採集出来たと思われる。両ピットにおける貝の遺棄され方には相違があるが、両ピットに見られる貝の主要な品種は共通している上に、採集された貝の成長度も各品種にわたって、両ピットにおいて酷似していることから見て、両ピットに貝が遺棄された時期の間に甚しい時間の差があったとは考え難いと思われる。

両ピットの時期の比定は両ピット内に含まれている土器の上からも行なうことが出来る。先ず両ピット内に含まれている土器の数量を口縁部、胴部、底部の部位別器形別に明らかにする。接合により、復元可能なものは可能な限り復元を試みた上で、出土々器片の数量をあれば次の如くである。

堂ノ尾山遺跡

貝の種類	ピット		第1ピット	第2ピット	第1, 2ピット発見の完形または完形に近い貝の総数
	貝の生態				
<i>Crassostrea gigas</i> (THUNBERG)	内湾岩礁性		1,450	7,000	3,450
<i>Anadra granosa</i> (LINNÉ)	内湾泥性		811 (双殻のと同じもの 112)	846 (双殻のと同じもの 15)	1,657 (双殻のと同じもの 127)
<i>Meretrix lsuoria</i> RÖDING	内湾砂性		98	556	654
<i>Solen gouldi</i> CONRAD	同上		392	少量計数不能	392 + ?
<i>Semisulcospira libertina</i> (GOULD)	淡水性		36	174	210
<i>Cerithidea rhizophorarum</i> A. ADAMS	半鹹水性		44	54	98
<i>Corbicula</i> sp.	淡水性		9	160	169
<i>Maetra veneriformis</i> REEVE	内湾砂泥性		4	23	27
<i>Sylina sinensis</i> (GMELIN)	同上		2	17	19
<i>Dosinia japonica</i> (REEVE)	同上		2	6	8
<i>Tapes (japonica)</i> DESHAYES	内湾砂泥性		5	2	7
<i>Neverita didyma</i> (RÖDING)	内湾砂泥性		2	14	16
<i>Hiemifusus ternatanus</i> (GMELIN)	同上		0	25	25
<i>Babylonia japonica</i> (REEVE)	同上		1	8	9
<i>Serpulorbis</i> sp.	内湾岩礁性		0	4	4
<i>Cipangopaludina japonica iwakawa</i> PILSBRY	淡水(沼沢)性		0	3	3
<i>C. malleata</i> (REEVE)	同上		0	2	2

ピット	部位			底 部			胴 部			部 位 不 明		
	口	縁	部	無文	条痕	有文	無文	条痕	有文	無文	条痕	有文
条痕と文様	無文	条痕	有文	無文	条痕	有文	無文	条痕	有文	無文	条痕	有文
第1ピット	17	62	2		4	6	99	63	2	19		
第2ピット	22	19			4	1	41	76	31	168		
計	39	81	2		8	7	140	139	33	187		

第1, 第2ピット出土品は大体同一時期か, それに近い時期のものと考えられる。大体において弥生式時代前期の末から中期初頭にかけてのものとして見てよいようである。

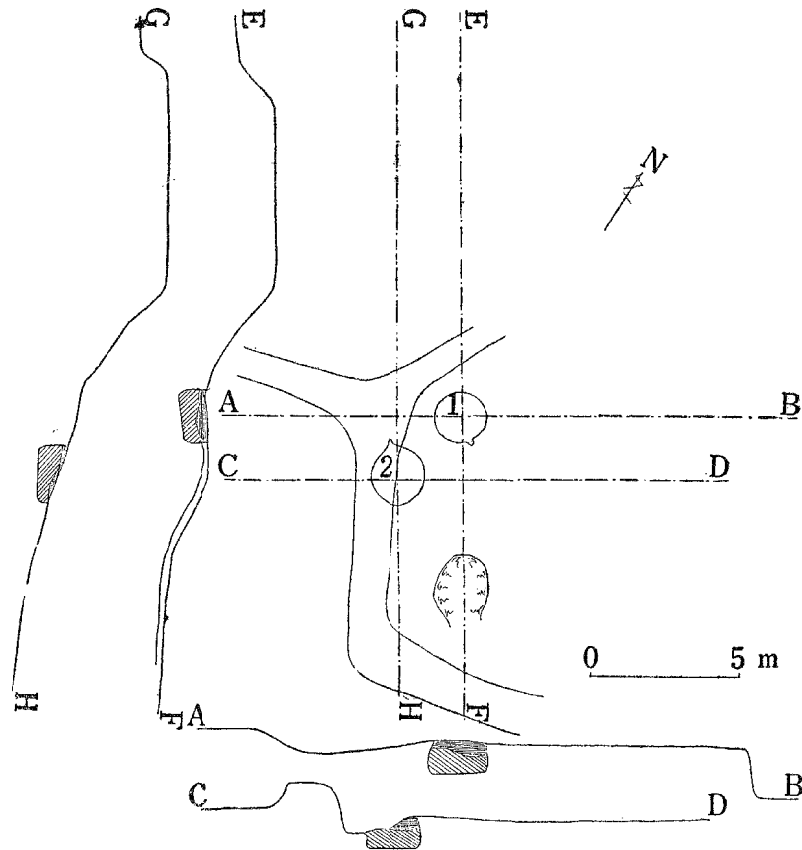


Fig. 3. Flat plan and cross sections of the pits.

- 1, Pit 1.
- 2, Pit 2.
- E—F, Vertical section.
- G—H, *ibid.*
- A—B, Cross section.
- C—D, *ibid.*

広義の遠賀川式に属すると見られる甕形土器（第1，第2ピット）と壺型土器（第2ピット）がある。口縁器形において前期様式を踏襲しているもの、須玖1（中期初頭）の壺や高杯の口縁にあらわれる「く」の字形の口縁，円板状のはりつけ底を示すもの，内側に段状凸帯をめぐらし，外側に平行沈線をめぐらす壺形器形等いずれも第1，第2ピットに見出される。第2ピット出土の遠賀川式の壺形土器（Plate IIIの6）は下伊田式に該当すると見られるが，凸帯を胴部に有する点，貝殻施文で飾る手法は山口県沿岸地方に見られる特徴を示している。近い例としては土井ヶ浜，無田（豊浦町吉永），綾羅木，梶栗浜等に見出される。内側に段状凸帯をめぐらし，外側に平行沈線をめぐらす壺形器形は須玖1に類似するものと思われるが，同様のものは綾羅木，梶栗，黒井等に見出されるが，愛媛県の阿方式にも近似することからするなら瀬戸内に分布することが考えられる。

以上の考察を通して結論されることは第1，第2ピット共に，同時期に存在したものと考えられること，その時期は土器の様式から見ると弥生式時代前期末，中期初頭のものと思われる。なお土器の様相の上から見ると，北九州における前期末，中期初頭の様式を伝えているが，それが若干の地方的特色をもつと見られる点は注目に値する。

堂ノ尾山遺跡

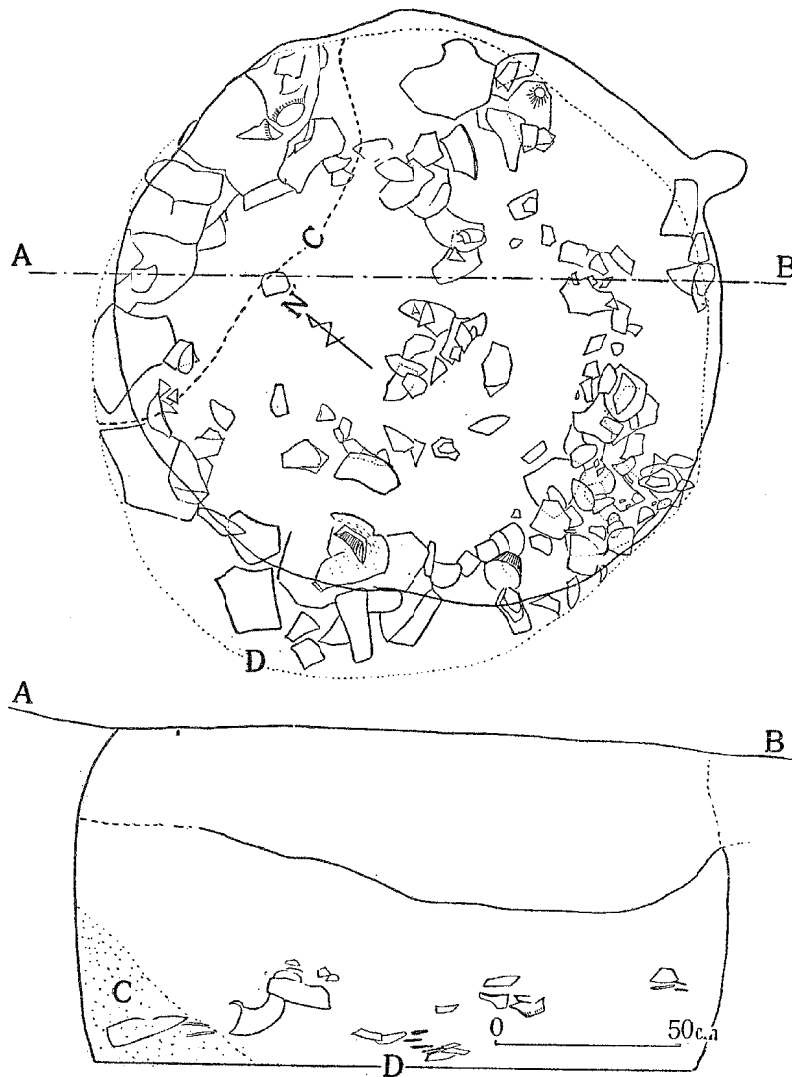


Fig. 4. Condition containing pottery sherds of pit 1.  
 Upper : C, Place where the shell heap was found.  
 D, Floor plan of pit 1.  
 Lower : Strato-condition of the section of pit 1.  
 C, Shell heap.

なお前期末中期初頭と考えられる時期にこれら器形が如何なる組合せにおいて使用されていたかに示された点にも意義を見出してよいと思う。

最後にピットの性質について考察したい。ピットの内部に見出された遺物はこわれた土器、土器片と大部分は食用に供したと見られる貝殻ではあっても、はじめから廃物を遺棄するためのピットであるなら、入念に形を整えたピットを造形する必要はないからである。従っておそらくは貯蔵用のピットとして造られたものが、後何らかの事情によって廃され、廃物の棄て場として利用されたものでなかろうかと考える。

ピットを造り利用した人々の住居址は発見されていないが、おそらくはピットのある位置に近い台地頂辺の平坦な部分にあったと思われるが、その部分の大部分およびピットの周辺地は墓地になってしまっているので将来においても居住地区の状況を明らかにすることは困難であろうと思う。

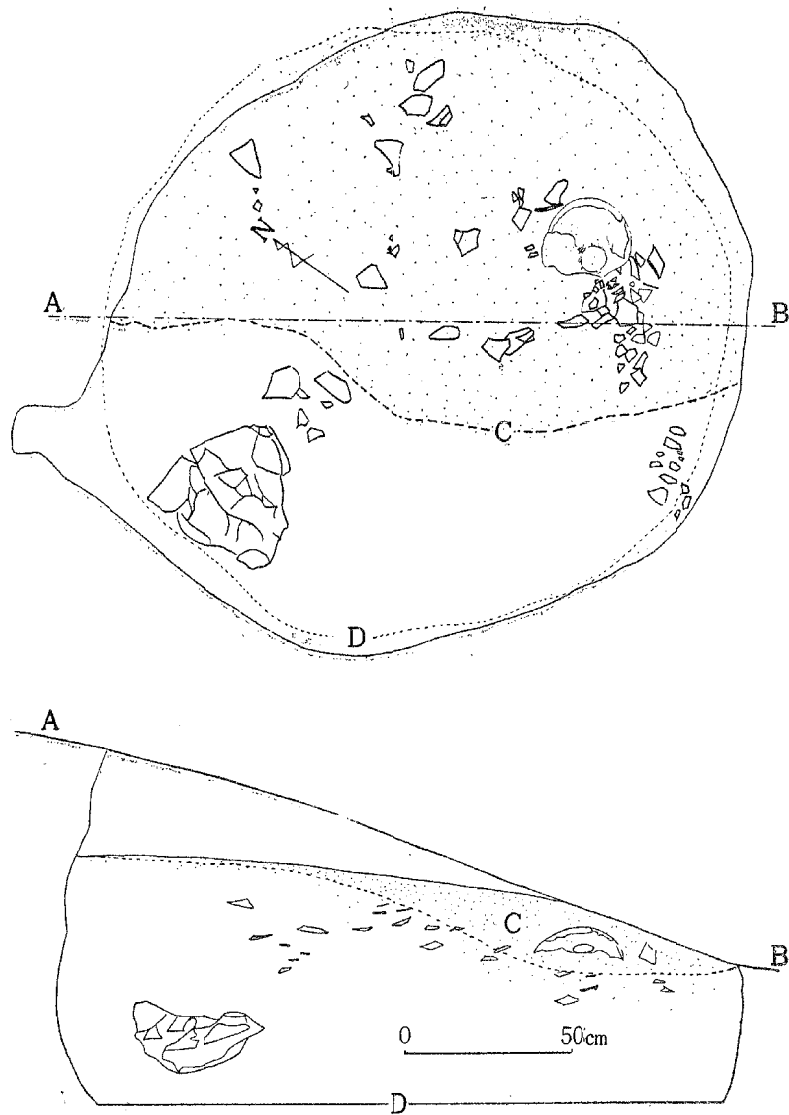


Fig. 5. Condition containing pottery sherds of Pit 2.

Upper : C, Place where shell heap was found. D, Floor plan of pit.

Lower : C, Shell heap.

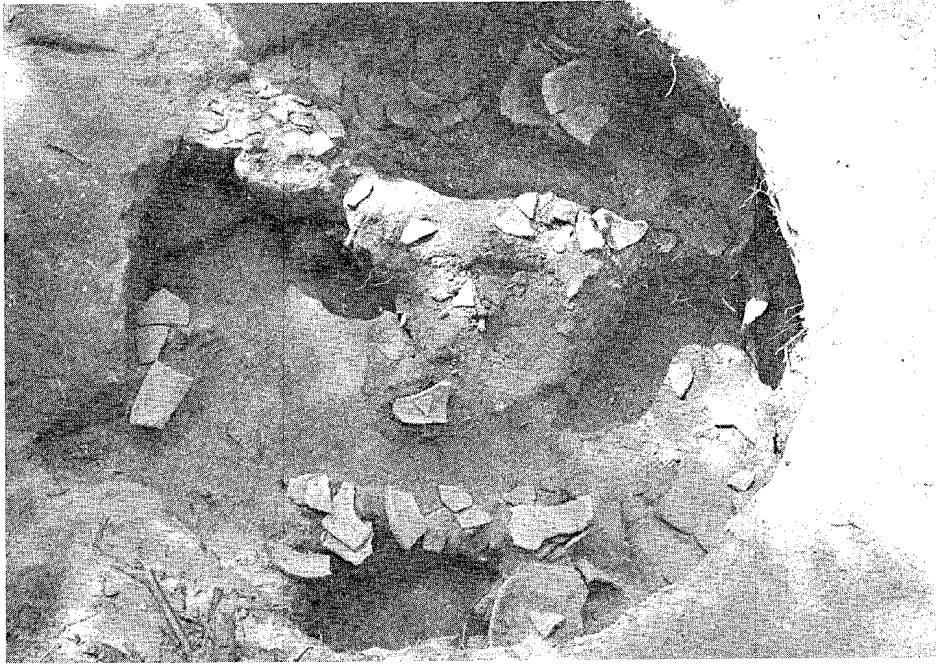
本遺跡出土の土器の様式比定を行なうにあたって、乙益重隆氏の御教示を仰いだ。明記して深謝申し上げたい。山口県文化財概要第4集における報告は写真図版を十分に使用出来なかったので本報告において詳細を行なうことにしたものである。

P L A T E

PLATE I

- 1, Condition containing pottery sherds of pit 1
- 2, Ibid pit 2





1



2

PLATE II

Showing a crushed pottery in pit 2

PLATE II



PLATE III

Potteries

1, 2, 3, 4, 5 & 7 : unearthed from pit 1

6 : unearthed from pit 2

PLATE III

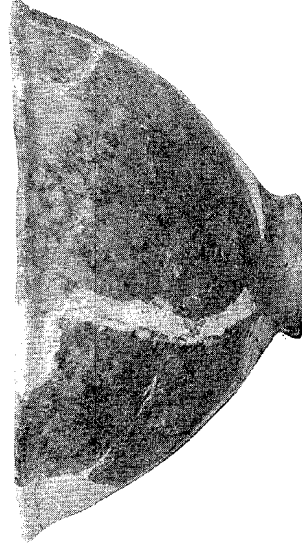
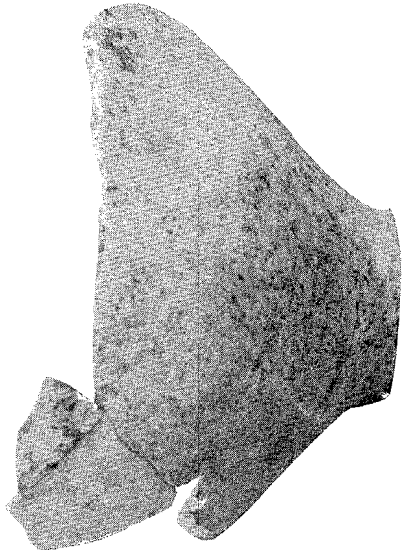
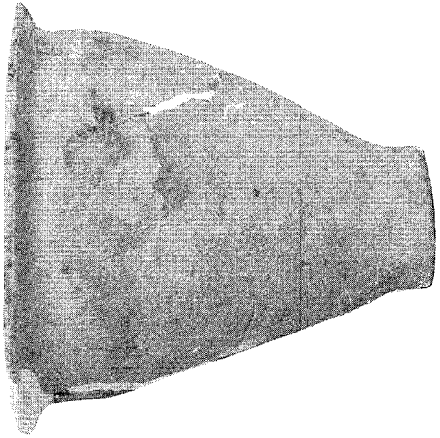
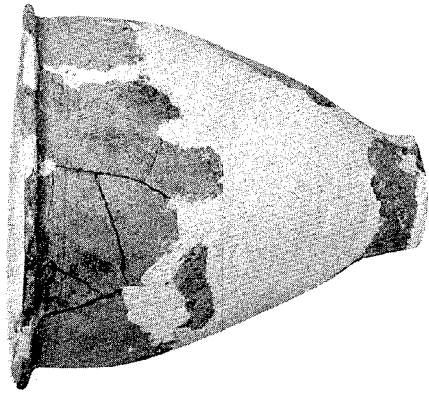
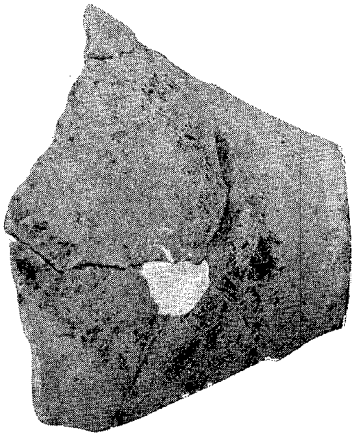


PLATE IV

Types and profiles of potteries from pit 1

PLATE IV

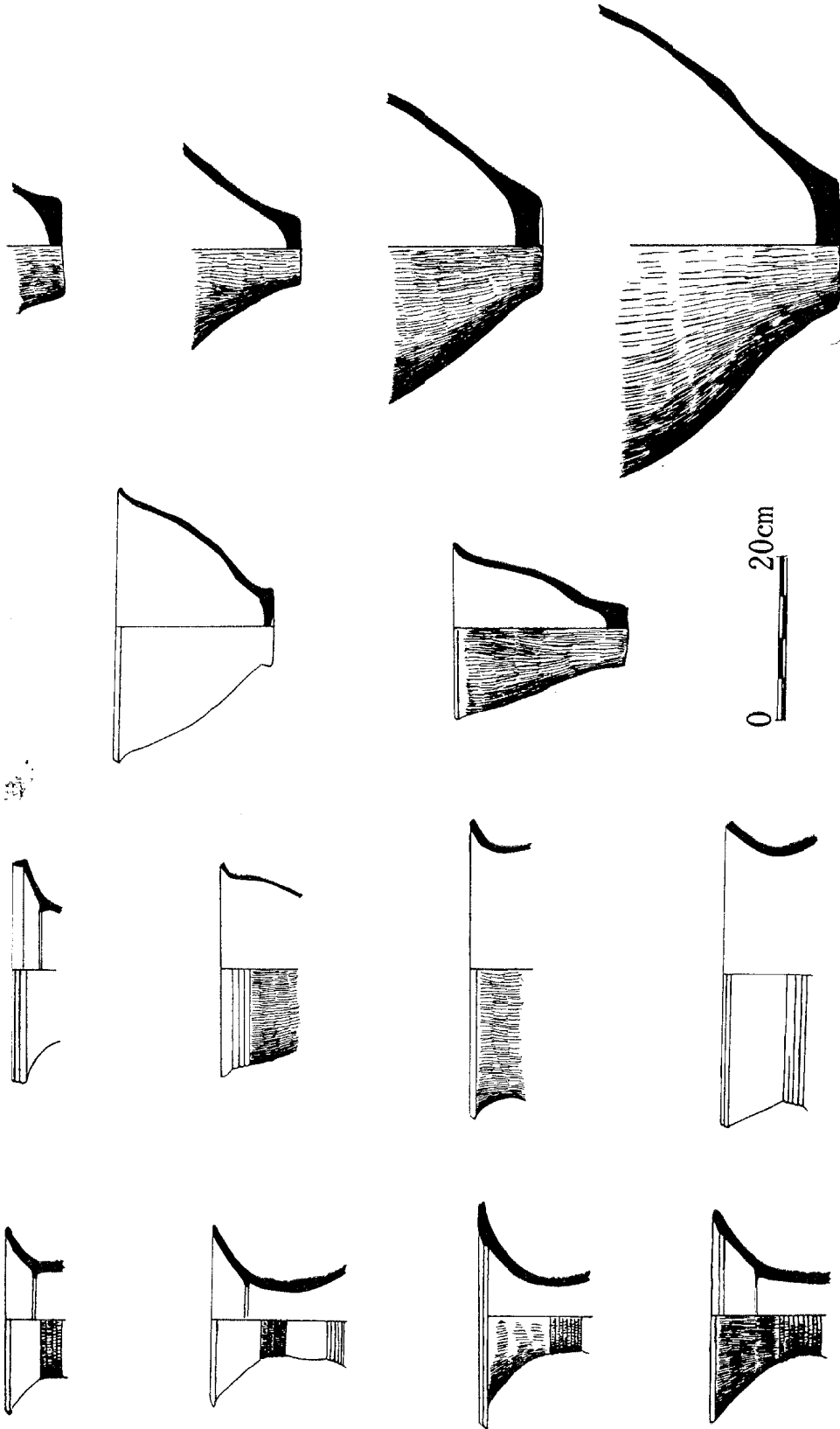
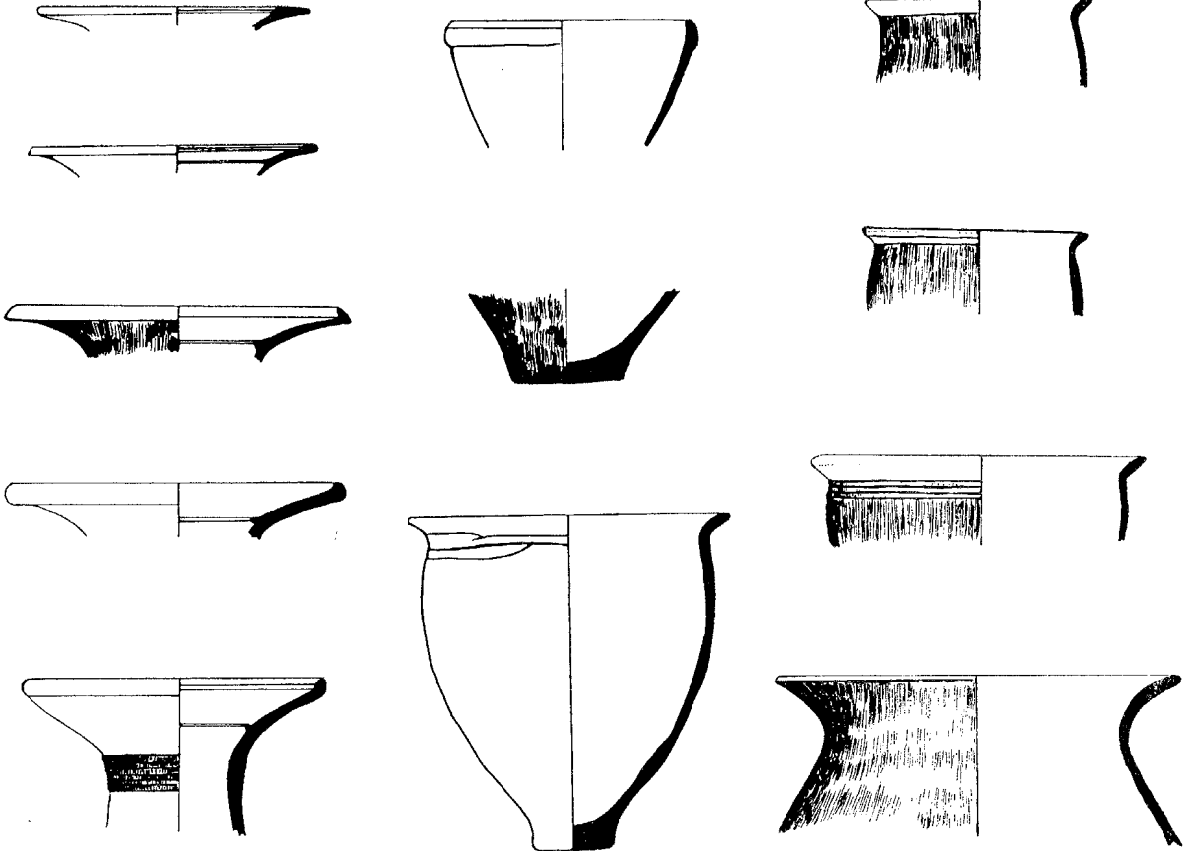


PLATE V

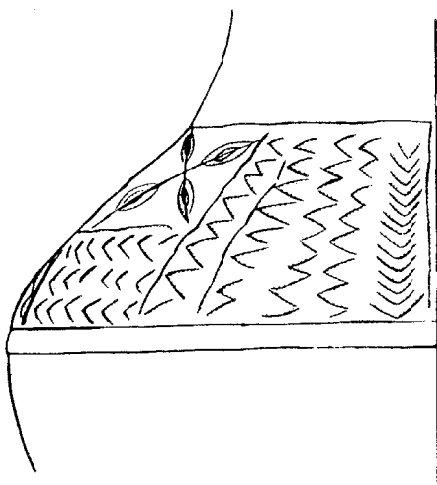
Types and profiles of potteries from pit 2



PLATE V



0 20cm



0 8cm

